

文會雜記

二

15
463
23



15
469
子2



一白石詩ヲ見出カノ体ヲ作ラセタリスヘテ錦里先生ハ詩文ハ拙ケル氏学識文運

ヲ開クカラ箭ヤリ唐詩ヲトテ出セルハ錦里先生ナリ錦里ハトカノ十三経ヲ

立テ、江疏マテ見サレ経学ハオラスト云タル由コレ古学ノカラマヤリ

一芙蓉島公モ初宋元ノ体ヲ作レルハ自由自在ナリ人ノ五人口ケモナリタリ享

尚モ丈夫ナリ幼少ノ時文珠小僧ト云シヤリ水戸義公御モライナサレ儒

官ニ成サレトアリシロ氏師匠辞シケルトナリ後白石ノ詩ヲミテ詩風ヲ變

シタリ其後国仲錫束禪寺ノ旦那ニテ但来ノ詩ヲ見セラル故イヨク

詩ノ格調ノ工夫ヲセラレケル由但来ヲ一相見セシトナリシ中ニ休云羽過ユキテ

明治
年
月
氏
印

對面ナシシ故南郭トヨリアヒテ詩ノ知已ナリトテ悦ビシヤリ南郭又云カ公
ノ詩モ律ト歌行ト至テヨシセ絶ヤシ次ナリ其ワケハ必學問丈夫ナル人セ絶
ノアシキカアルトナリト也アガリニ過テ風クマウカヤシ次ニナルトナリ

一世説頌ノ詩タチ一種アリタトハ令部ナト云マウナリナリ晋書ノ出来名頌
モ合点ユカス詞ノタラヌマウナルトアリト見テ字ヲタシテ晋書ニ肩ヲコシテ
見レハ唐ノ初テハマナクトスミニクキト見ユ然レハ今日ニテハスミクモ尤ナリ又王
元美カ刑去タル世説ノ残りナリ今モ古世説トテ臨川王ノ選ノナリノ本アリ
王カ刑去リタルト見レハ一向ニ合点ユカス面白クナクヌ又トモナリ王モスマ

ナルト勿論ナリ詞ノタチハテ時代カラフナリシユ此度大東世説ヲ肩タルニモ
日本ノ昔ノ詞ホノタルマラシカリタルマラシシレヌチヨトニカキタルニホメタルマラシカ
リタルマラシ不知ト同シナリ時代カラノ似タルユ一詞ツキマテモ自然似タル分ナ
リナリアシコモツキ合テ見レハコトホタル也トモ知シヌハシカリタルトモ知レルト和漢
同シクコトアトイフ世説ニ肩タルト也ト云ヘ世説書タル処古辭ヲカラヌ多ク肩
タルト古辭ヲカリテ書ケハ日本ノ其時代ノ詞ニ似タナリ尤サツ字ヲ足シテ面
白脊タル処モアリ南郭語ラケル世説ハ三鏡江從十訓抄今昔字拾遺
ツレクヤナトノ中ヨリ抽出シタルナリト南郭語ラレケル

一文雅ノ政事ノ行フテ至極ヨキナレ其國ノ風俗ヲ改過レバシキナレ白石
ノ如クニサハ畢竟今ノ江戸ノ公方モ室町家ノ如クナルヘキ歟但シ白石ホトノ人ニ
タリニナキオ也ト南郭ノ説ナリ

一南郭ノ借ラシニ亘洛ノ人輕浮ナリ小倉中將殿南郭ニ寄詩ヲ無賴ノ町人
ニ頼越サレシカ不在ノ時ニウケトリテアリ數年ヘテ和ナキニ成島道筑(中將
殿ヨリ和ウヲ云フコサレタリ)南郭成島(返答ヲ遣シ)御作遣サレ辱奉存候
但和イハ決向御断ヲ申スト永バト謝詞ヲ伺テサテ堂上方ニ和歌ヲ大切
ナサル由私方モ詩ヲ大事ニ仕ルト其アトニ肩ヲマリタリト借ラシケル

一左傳ノ見ルモ古文ノ轉換スル勢ヲヨク合矣トサレハカミクタキタルト云レマシ古
文ヲ解スルハカシキナリト南郭ノ説ナリ

一古書ハカタハヒヨリスムヘキモノ非ス南郭老師モ若キ頃漢書ヲトテ本文注(カケ
テトクトヨシ)付帛ナトシテサテ又本文ヲ打カヒニ再覽メアリ其後ヨク見レ申シ
スマヌト多シ其スマヌ處曾テ氣ツカサリキ然レハ今時ウテマクシテ客氣ニテ
古書ヲヨクヨムト云類モ大カタテカ若キ時ノ如クナルヘシト南郭借ラシケルト云ヘ
古書ハアヒモソリフノアウ處ハスマセトモ其外ハ推量ニテコノ外ニハ料簡モサノミ
ツカスト云處ハスマセス置ヨリ外ナシ畢竟注家ニ色々云フ皆スイソマウナリ

勿論ナリト論セラレタリ

一南郭云清人待文二三冊ホトツアルニ十部モ肩林持来リテ見セタリ明宗ノ
アシキ風ヲウケテ作レリ但博字々ハリ明宗ノ博字ヲツキタルト見エ情ニ
ハ待文ナシ明史記事本末ハイロモヨク事ヲツリ集メタルニ明ノ事ヲ
見ルニハ大ニ益アリトナリ

一白樂天ノ詩ノクシキヲ誰モ云フナレ長恨歌ナドノ如キ古事ヲ用ヒテトヘアラ
ハサヨク明白ニシテシカモ情ヲ失スニ作レルハ千秋ノ絶伎元瑞モホノタリ小
督詞樂天ニ擬シテ見テ初テ樂天ノ及カキヲ知リタリト南郭語セリ

一國初ニ文章ノキハ云ニ及ス但来兵ラルニテ内ハ文ハウラマナリ羅山ナト見
ツニ其中扶来隱逸傳ハサシマサリタルマウニ覺ルナリト南郭ノ語ナリ

一周礼儀礼ヲ自文ノ利本久シクアリコレハ點ヲヨクツケクルモノ也古代人ノ魚
ト覺ユトクトニ脊ヲヨク見タル人ノ臭ナリアシキ処スコシマリ是ハ羅山ノナラサレタル
ト思ハルト南郭ノ語ナリ

一南郭云清人ノ作ニ古今通韻ト云モノアリ古韻ノコトヲトクトセンキシツメテ古今
ノ韻ヒシトアマウニシタリ珍ラシキモノナリトクトセンキスレハスマヌフモスモノナリト也

一南郭云學者ノ中ニ文ハ至極ノ六カシキモノ詩ハナリ易シト云テ文ヲ専門ニシテ詩

ヲ次ニスル人アリシハ詩ノ六カシキアソイヲ知ラサル故ナリトタリ返々説レケル

一南郭之今ノ諸侯方ノ詩ヲ作スルハ貧窮ニ外大ナル者少ナラテ學問(奔
ソタマフカシキアソイト諾ラレケル

一南郭之日本學者中華ヲメツタニ文物國ト覺ヘリ中華人ハトモサマシキ學問
アルト覺テ見スサキヘマケテカニハ口ヲシキアソイ中々左テハシ唐人中ニ詩文上手
澤山ニテマシテ知ヘシト諾ラレケル

一仁存ノ實徳ト熊沢ノ刀ト予カ學文ヲ合テ聖人カ出未スヘシト徠翁ノ云レタ
ルト菅道伯諾レリ

一并子叔東海寺ニ遊テ版愿卿ノ墓ヲミルニ表ニ隸字碑陰ニ南郭老師文ヲエ
リタリ前水ヲタル石ノ墓盤トホリタリト子叔諾レリ

一東壁ノ游相記事ノウラニ徂未ノ骨タル詔北記有山生猶是ハ戒黑旋風邪ハ戒
——云人名玄奘カ天竺ニ遊タル時信シタル人ニテタマケラヌルト也

一芥子園畫傳六冊至極ノ好本ナリサシキ仕立花鳥モアノ唐繪手本此上
ナソ見(侍リヌ

一翼之 云七言歌行ハ倬逸ノ刀ニテナケレハヨクハ出未スナリ歌行上手
唐三百年ニアレトモ色々丑ラハ少ナラテハナシ古今和漢上手ト云ハ南郭一人

ナリ又上言律盛唐ノマウナルハコレアリ後曾テナシ明一代ノ上ナ何大復カ五律
ト云氏随分ニエラミタル何カ五律ノ唐ノ五律ノエラミタルノコリニ比ヘラレテモ大復
カラトルヘシサテ又盛唐ヲ学フトナラハ必千鱗ニツイテ学フニシカス其ワケハ
盛唐ハ自然ノ氣運ニヨリテ出来タル詩ナリソノ于於ノ処ヲ学ハ日本ノ人分
ニテハメツタニヨク詩ニテスム也千鱗カ待ハ学問セメシテ子リツメタル待
ユヘソレニトリツキテ学ヒタルカヨシサテ千鱗カ待ノ絶句ナト一片征鴻海上過下
之ト唐詩ニテツトセヲトラヌ也又七律ノ内ニモ唐詩ノ格調ノ自然ノ処ニ至リタルカ
多シソレニ千鱗ヲ目アテテ唐詩ヲ学フ至極ノシカタナルヘシセカ子ノ中ニモ外ノ

六子ハ皆手ツラキカセ巧ヲタラカセテ作リタテタル故唐詩ノ格調トハ自殊ナル
ヘシ又明ニ歌行スツナシ空同ヲ上手ト云氏今ニシハ作リナライノ詩ノマウ也○
文ノ韓退之ヲトクミテモ古チナル文ナリ古文詞ヲカラヌメ古メキタル色ナリタテナル
コナキカウラミナリト羽翼之云ノ王元美ハ大ニラトリソル也柳子厚ヨリ入タルナルシ
李トクシラハカメシト云此ノ論ハ祖按ルニ羽翼之ノ論サンナリ元美カ文變化自在
ナルコ古今ノ一人也○羽翼之又云李カ文面白ケレ氏シマクハコナルマウノコナリ金華ハ
奇ヲ好トモ落チマクナキ文ニテ下ナリ乃ハ敵スハカラス金華ノ詩モ下ナ也
何ト云フコモナリ平ナルハ史記ノ文ニテソレヲ人ノナミタヲ落スマウニ感スル史記

ナリト云翼之カ此論ハ甚ルナル説ナリ唐詩モ史記ト同シテ何トモナキ處感
情ヲツシス南郭ノ只何トマシ言メタリツレハ序事ノ賦ナト古詞ヲカラズ
骨レタルニ古ルメキヲ出来ツキタルナリ又元美ノ詩ハ文ヨリヨシト云此論補未
心服翼之又云子式ノ詩ハ随分ニ出来タル梁有蒼位ナルニ又云金華ノ
文ノ中ニテハ骨統上ナリト○万菴ノ擬作干鱗ニ擬シタルハキツト似タリトモ
思ハス孟浩然ナトニ擬モラレタルゴク似タリ○中華前後漢ノ文人ノ文ヨキ
ト云氏一二篇ニスキス後世ノ文人ハ皆其體ナリ下キナカラ其體ニテカチラ
取タルモノナリシ

一 上野君則 名假一季十藏松元 但馬守殿家臣 詰ケル春臺琴ノ一付御尋有之度首并上河内守殿

千時寺社 奉行職 御指命ヲ以テ春臺ヲ召サル春臺曰予ハ樂人ニ非ステテ出ス三日ヲ経テ

河内守殿ノ郎ニ至リテ純ハ樂人ニテ候文ソレニ樂ノ一ハ得不申上候文字ノ一

御尋成サレ候ハ可申ニ候トアリ河内守殿用人モ尤ナリト云シトソ君則ハ春臺

ニ從學スル一三年ナリシト語レリ又云東涯ノ遺骨ヲ觀シニ胡傳ヲ駁セル骨

ナトモ入ラアリタリトソ易學通解ハ寫置タルヲ火災ニマケソトナン詰レケル

一 願齋ハ深見玄岱ノ二男ナリ飲中八仙歌ヲ石刻ス華人如キ墨帽ナリ又玄岱
ノ骨法ヲ受ケリ玄岱ハ明ノ獨立禪師ノ弟子ナリト跋ニ見ユ

一 居修云廣澤ノ書ハ閩國已未楷法ハアレトモ州行ハナキニ初テ州行ヲ書
出シタル上ナレバ和習アリト云ヒ名華ナルハシ徒羽ノキハアシキマウニ杜ラレ
トモ中華人古人ト見ユ豪傑ノ故ナルハシ東坡山菅朱子ナトノキヲ府家者
流ニ思筆ト云ヒ今見レバ及カタキ何トマランヨクキト見レハ其人物ノ勝レル
故ナルハシ春臺ハ唐流ナレバカタマリタルチナリ南郭ハ巧ナレトモ和人ノ面目アリ
小楷極ヲ見テナリ鳥石山人ハ東都ノ第一ト云ヒ和人面目ヲ不免関思恭
順平林モ和人ヲ不免トナリ

一 但木ノ説ニ有徳庸ノ上米ヲ命セラレタル時耻辱ヲステ、仰出サルトアツタル
カ大ニ譏レリ又備アケトハ何ナリ海内ノ封國皆國家ノ命ナリ御用アラハ
何トテアケヨト仰出スツマ所備トハ何ナリ閩ハ又ナリト云ヒ由居修語ケレ
但木晩年ニ云レシハ國脉ケナリタリト覺ユ其後病中ニ云レシハ國脉太ナリ
程ナク甲冑ノ入リナレシト云レシ由居修語レリ

一 加納遠江守殿肩林酒直屋新兵衛ヲ以テ春臺へ經濟録ヲ覽テ
度ヨシ実ハ上覽ニ備ヘキヨシヲ云越サレタリ春臺ノ答ヘニ鄙人ノ著述
上覽ニ備ルナラバ難有候然ハ胡亂ニ肩ツテ候ニ清肩仕指上可申候トモ充
衰其後難仕ヨシ即断申上ラレタリ也其故ハ決テ内官ヨリ物ヲ指上ルハ

セマシキトナリ執政ノ内ヨリ仰下ラレテハ出ス(キトノ意ナリ加納氏ハ紀伊彦ノ御大夫
ナリシヲハ有徳廟後セラテ諸彦トナラセリト居修ノ語ニケル

一 居修云関思恭ノ骨ハ廣沃ト其俣ナリ是ハ口ヲシキトノ廣澤ノ奴ト云ヘキ
ナリ師ニ似セテ似ルト云フヨキトナレト自分ノ持分ノ一家ヲナスヘキ似セ物ニル
トハ骨法ナリニカキラス文モ詩モ學問モ皆同シトテ師匠ノ奴ト云ヘキ
一 日本ノ韓柳流ノ文章ナシト云ハ祖未不勅身已前ハ文章ナキ故祖未
已後ハ皆王李ヲ學ヒタルユヘトナルヘキ飲野村新左門ハ彦根ノ人名公臺
字子賤春臺ノ門人ニナルヘキトテ東都ニ來リニ春臺死ナレタリ此子賤ノ

文少シ韓柳カリナリ又仁斎先生ハヨク歐陽永叔ニ似タルカ大學辨私擬策
尚ナトハヨク出未タルハ宋文ナリ仁斎ノ大學辨柳子厚封建論ハ甚無理ト
文ナレト文ノ一體ノ理處ハ多骨トリタルモノニテ面白キトナリト居修語レリ
一 南郭云周南病中ニ詩文稿ノフヲ服子ヘ云越ル状ヲ骨ヲ禱ノ下ニ入テヤリ其
趣意ハ此稿門人集タリモシ世ニ傳ヘキ詩文モアラハ刪リテ節集ノ傳ヘテタレ
ラレト也周南病氣快復ノ頃其骨腕ヲ見出シ南郭ヘヲコスイマタ全集
ハ束ラスト語ラレケル周南ハ南郭ヨリ四ツ年ヲトル
一 居修云天下古今難處ハ宋高宗ナルヘシ趙苞徐慶ハモマアノ通ニテ

ヨカル(シ)又朝鮮退漢カ集事難処(一)ハ序一等ニツキテナリ氏早ク決断シタルカヨキト云トアリ其説自宥録ノセタリト)

一 君修云今ノ内官ノ勢ハ有徳廟ノ時ヨリ甚盛ナリ高井兵部ヤ捕節倒職ナリシカ執政ノ人モ賂賄ヲイレタマハレ也水野壹政守殿不多伊子守殿兩人ハ老人ニ在リテ賂賄ヲシタマハス其餘ハ殊ニ多シ御攝代ノ諸侯モ皆然ナリトナリ祖云後漢ノ宦官ノ如クノ勢ノヨクアルヘシト思ハルニ

一 斑馬異同ハ春臺見ラレタル由君修ノ説ナリ祖古脊ノ叙事ヲアツメテ異同ヲミセタキ一脊ヲ作ルヘキトテ詔ル君修嗟嘆シテ大ニヨカルヘシト云リ

一 君修云華人ノ文ニ記事ノ体ナシ記事ノ体ヲ作ルホトテハ一脊ヲ著スト見(タリ)韓退之ニ書ララセト張籍ヲスメタルニモ云ワケアリ原道ナト取アツメテ一脊トナス(キ)料簡ニ又純美ナル文ノ一脊ツクリヨ子タル但シ順宗実録ハ史ノ軀トモニ(ス)韓退之ノ平生ノ文ヨリヨトリテ見ルナリ然ハ実ヲツクリスト云テ柳子厚ニ答ヘケルモ實ハ作りニクキ故ノイ(ク)ナリ

一 南郭ハ至テヨク文選ヲ暗誦シタマヘルナリト君脩ノ語ナリ君修又云中華ノ人ハレカクヨク脊ヲ著ス日本人ハ書ヲ著ス人ナシ

一 君則云辨道書刊ニ出テ後巫祝ノ徒校本ヲ打破リ度ヨシ寺社奉行

松平紀伊守殿へ訴ニ及ケルト也

一元麟云春臺ノ漢昏ヲ見レハ五色ヲツタル小敘ノ如クニ見ユコフニテ點ノ

アシキ処又リケシ悉ク直シ字ヲ改メ考ヲ骨込評ノ入用ニテキ処朱ニテ塗

抹シタルトシ

一子式或時南郭ノ詩ハ何ヲ目當トシタフ哉ト問シニシカト目當モアラズ

若キ時杜子美ヲスキテ見タルユトコマラ似タルトモアルハキト云レタルトナリ

一池秋平谷ハ勤孝ハ公敏号九霞平安ノ人ナリ元ハ大高人ナリシ東都ニ

海覧ノ南郭ニ相見シ柳澤下野松平大隅守殿ノ大友ヤシ子問モナリ西能ノ門人ト也西ヲモ字ナリ

一鶉士寧聽湖館舩帰賦奉寄主人涸公。使君灘上雨蕭飒送帰

舩。雲鎖朱門隔。江連墨水浮。枉歌兼獨夜。醉卧易鳴流。且喜往

来吏。重應問勝游。

一顔氏家訓春臺甚好シタリト也物スキ似タルユナレシト君修カ借ナリ

一春臺云中華古人ノ叙事ハ甚ヨメ易ク理論甚ヨメカクシ後世ノ文ノ理

倫甚ヨメマヌク叙事ハ甚ヨメニラシト云レタリ知言ナリ

一春臺曰所當家ノ末ハ大カタ盜賊ノ乱セナルヘシト云レタリ

一宋詩アシキハ論未定ナリ滄浪ヨリ盛唐ヲヨキト見付高廷礼ニナリテ杜

ハットハ歌行七律五律ヨシ季ハ絶句ヨシト品ヲ定メタルト其後空同大復出テ
千鱗元美出タリ歌ナト数百年衰タルハ論未定気味アリ以後待ノ論ノ
如ク阪人出来テ古ニ復スヘキカト春臺ノ祝ナリ

一曇海上人ハ談談僧ナリ南郭詩文ノ往復アリ本多越中守殿初見ルニ
トアリシツ春臺トメラレタルトナリ人物スキサマニナリト居修信シリ

一春臺乱族傳トシテ文ヲ層ルニシトテ志不果成セラレシコトハ異姓ノ子ヲ養テ嗣
トスルヲ乱族トシトナリト居修信シリ

一春臺至テ精カクツヨキ人ニ明日ノコトヲ今日ニマイ置ルモ也ト云ヘイツモ

後容トシテ居ラレタルト也何ノ物ヲ見ルトモ必唐本表紙ヲ和表紙ニカヘ
墨ノツキタル処ヲスリケシ嚴密ニ整齊ナリシトナリ史記ナトニ元鱗カ云シ
如ク上色ニイシキテアリシト也居修信シリケル

一居修ニ改蘇文必ミツヘシ古文辞家ニ非トモ熟覧スヘキト也

一子式南郭ニ僧ノ往復ニアヒシラヒイシキニ過キタルハ如何ト問ヒシニ何
トカ方外ノ交ユヘヨソアヒシラヒニチトイシキニスルト云レシトナリ

一文廬ハ憲廬ノ改ニ相シキ有徳廬ハ文廬ノ改ヲツトテ破リタマヒ

憲廬ヲシタヒ給テ有徳廬ハ御自分ノ御物スキラヒタマフ故ナト内官

権威起ナリ

一公族大夫ト云テ同姓ノ大夫ト云テ南郭ハ用ラタリ春皇ハ公族大夫ハ彼義ノ名ナリト云レタリ

一爽鳩氏ハ鷹見三郎兵衛ナリ田原茂^{三宅}ノ大夫ニテ政事ニ殊ノ外心ヲ方シ甚功アル人ナリ四十有餘ヲ短命ナリ春皇屢賞セラレシ人ナリト也

一春臺曰唐己前出家ノ宗門ト云テシカト云テ又達磨己後大禪マリタリ其後破戒ノ僧多クアリシカハ明一代ニ律ノ出家多シクニ明世ハ詩僧傳ナシ域中ニ治心謂之内教ト云論菴微録ニ出タリ以佛肩甚面白キモノ

也ト云シト后修詒也

一東野モテト放蕩セル人ナリ金華モテチナキ人柄ナリ然トモ春臺ト甚懇意ナリシ金華ノ吐シニ天文ハ不知霄ノ明星ヨク覺ケルト云シカハ春臺隱伏アルヲ詒ラシカハ始テ敬焉タルト也

一辨名辨道ハ春臺ト南郭ト立アヒテ校正ナリシトナリ

一春臺ハ入門弟子ヲトスル時殊ノ外六ツカシキナリ其故ハ無行人ヲ門人列ニ置トモナキユヘナリト后則詳ニ措リケル

一上路ト云テ南郭ハ名ノト云レシ由子式ハ所路ナリト云レシト也

一春臺老子ノ注ハ韓非ヲ解老ニモトツキ莊子ヲ引合テ匡スヘキ由ノ物スキ也
ト詔ラレシヨシ居則ノ話アリ

一元麟曰春臺ノ方會有リテ毎セツ半頃ニスム人散メ後春臺ハカマヲヌカス
レテ直ニ其首ノ會ノ脊ノ字ノ違フ直ニ又ハ考ル所ヲ脊込テトセラレタルト詔ノ

一子蘭ハ情ノコケ人ナリヨク書ヲヨシ解スル人ナリ世説ノ會ノ時ニ春臺トモ
ヒタトセリ合テ春臺モ大ニ驚嘆セラレタルト云

一諸侯ノ参勤月ノ制定ラシ時大ニセンキアリシト云ノ 尾張殿記伊殿
水戸殿三月内参府内暇國主外様ノ諸侯四月ト定ラレ三月内所馳走

心ナリ不寒不暑日ノ長キヨキ頃ナリ即借代ノ諸侯ハ六月七月交代ト定ラレ

十月ヨリ冬中正月二月マテ北國雪フル國ニ道路ナラヌハ内九月ハ西海秋風ノ起ルテ

ハ六筑紫大各ノ参勤ナラヌト云ハ六月ニ定ラレ由春臺ノ詔キシト居修ノ作也

一今ノ人利口ニテ何レモ其道ヲ不学ノ自分ノ知エテナス云ハ結句其術不直

何レノモ其道筋ト術トアリソレヲ字ハ骨折ラヌシテナル也自今ノ知エラ

出スト害アリソレユヘ市町ヲ過ルトモ何ニテモスルヲヨク氣ヲトメテ見ラレタリ

一骨物ヲトナル類ノ一モ得チナリシト春臺詔ラレシ由居則ノ話アリ

一觀海樓ニ過ル序ニ三田長松寺ニ至テ徠翁ノ墓ヲ拜ス居修詔リシハ

東都墓碑石甚不自由ナリ春皇翁ノ墓碑石金一枚ヲ購得ラセトシ

一 祖来諸國の咄シ色々ノノ人語ルヲ随久心ヲトメ聞レシト也 没後箱中ニ状ヲラ
マ友古ナトニサマニノ咄ヲ廣間ナトテ聞タルトテ肩方置シタルヲ尋出シタルト也
春皇モ又具通ソナリトハ國除シタル侯家タレシト指テカクテカクニ云ラレ
テ咄サレ其外色々ノノヲヨク覺ヘ居ラレタルト也 居修倍ラレケル

一 祖来ハ等用ナラヌ唯紙ノハシナトニ肩付テ教ヲトリナトシテミテ度量考ヲ
セラレタリ 俗利不可當フコシテ知ルヘシ唯ハ等マテ覺ラレタル由コレニ度量
考ニサシ違有ルヨシ也 春皇クワシノ改メテ字ヲ直サレタリト居修倍ケル

一 長澤純平處士タル時赤穂ノ内匠及殿へ呼出サルキ相傳アリケレ氏事ナラヌ
ワテ吉良殿ノノアリテ大石入子吉良ヲ殺セリ純平曰予赤穂ニツカヘサリニ
大幸ナリツカヘタリ氏アノマウノ大石カ徒ノ不義ヲハナスマシキト云ノ純平ハ大
石ヲ以テ不義トセリキコヘ又論ナリト居修倍ケル 純平後ニ高田彦三仕タ
リニ子喪明セルヲヒサシ居タテ字ヲ教ヘ學者ニシタテタル男ナリ

一 祖来紀知新書抄アリト也コレハ縣官ヨリ余セシ出来立タル也

一 子亮曰公教ニ傳ハヨコミチノ理空座ヲニタルモノナリ

一 紫芝園稿ハ希汲榎村ト子亮ニ子シテ肩タテ聞ラセタルトナリ

一 祖未ハ無器用久拍子キカス勅陸精カラ尽ニテ樂ヲ学ハタルトナリ
一 春臺ハ舞樂ヲヒラシタリ_一过氏ヨリ免許状ヲモラハタリ_一諸子集ノ時舞衣ハ故沼田侯賜タルカアリ_一シト也

一 春臺ハ五ノ日ヲ定メテ在宿ニテ客待タリ_一月ニ三ハ十ナド_一凡度ノ會アリテ諸子集ルトナリ_一朝ハ六ツ過ニラキテツク_一テ羽箒ニテハライサテ骨物ヲ積レタリ_一晚ハ燈ヲトホス内ハ服(ツクヘ)付テホツク_一テ夜ハホツクヘナリ_一シト也_一写物ヲスル時ハ謄写スルトテ_一倦ム_一必外ノ骨ヲ見ラシテ謄写ナカリ_一シト也_一秋頃ヨリ冬ハ夜四ツテヲキテ骨ヲ見ラシタルトナリ_一抄骨ハ

ヨホトアリ_一群骨雜抄ト名ツケテ骨付ラレタルカ四五冊アリ_一外ニ唐待選ノ如キ_一小本ニトキタル抄出ノ骨アリ_一コレハ秘シラレタルト也_一澁溷集モ骨写本ヲモタレタルニ_一火災ニ焼レタル由又徒然_一竹_一味_一好_一テ若時_一鉄_一槌_一何_一カト_一リアツ_一簡意_一注ヲシタルカ_一全部出未_一タ_一テタルニ_一是モ火災ニ_一カ_一リ_一タルト_一咄_一シタルヨシ_一元麟_一陪_一リ_一ヌ

一 如辰日探幽ヨリ_一席繪ト云フ_一始リテ_一画ス_一タ_一リ_一席繪ト云フ_一アル(キ_一フ_一ニ_一アラ_一ス_一其_一子_一細_一ハ_一マ_一キ_一筆_一ヲ_一ア_一テ_一ソ_一レ_一テ_一ハ_一リ_一ツ_一ケ_一テ_一ヨ_一リ_一沈_一思_一サ_一テ_一ウ_一ス_一墨_一ヲ_一テ_一下_一画_一ヲ_一カ_一キ_一其_一上_一ニ_一テ_一墨_一ヲ_一イ_一レ_一テ_一本_一ノ_一画_一ヲ_一カ_一ク_一ヤ_一リ_一シ_一ニ_一唐_一画_一モ_一日_一本_一ノ_一古_一人_一ノ_一画_一モ_一ニ

重肩キ也二重肩キユヘヒノ衣紋ナトチカフタカアルニ重ニ墨ノイリタル見
ヘテ肩違ト見ルカアル古人ノ真筆ヲ丁寧至極精神ヲ勞スルヲ見ルニ
カクノ如ク心ヲ席西カ肩ルヘキマニ重西肩ト云フ狩野家ノ有今ノ人夢ニモ
知ラヌフナリ大事ノ秘事ナレト傳授スト皆ヒリ又牧溪ノ龍ハ亦ノ龍ト云物
ナルニ龍火ニラカリ日本ノ悪流ノ俗ウナリトカクニ画ヲ見ツケテナル人
ナキユ今ノ世ハ俗物至極クシキ処ヘ陥リタリト云リ又圖ヲヌケヨト云フヲ父
ノ養辰朝クニニヘリ師ノ範圍ヲ出ヌ画ニ至テリ又専門ニ唐人ハスルト
云モ先細工肩ヲスルト云フナシ其取初筆法ト画法トヲ字ヒテ肩テミテシテ

其处长ク含息ノ或ハ山水或ハ人物或花鳥ト得手ヲ肩テタキタリサレハ山水
肩ニナラレラレハ人物肩ニナラント云テシカノタルトハナシト皆確論ナリ

一 曾呂利ハ大岡豊キ寵セラシシ人ナリシカ大岡カ一石米ヲカイカ子テケフモ斗
カイアスモ斗カイト狂歌ヒシヲ大岡関召シソノヲ召テ此狂歌尨ナレトモ
ワレ天カ下ヲ掌ニ握リタルヲ大岡カト云タルカニクキト云レタル時君カ世ハ千世
ニマ千世ニマシ石ノ岩ホトナリテ苔ノムスマテト云タルハ天子ヲ君カト申セシ
ト云シカハ大岡詞ナカリケルト也

一 祖来ノ和歌一世ニ首ヨラレシニ

吾門の入りし柳技りれ長月よあふのち

清水谷実業御下向の時ヨミタマヒシ
定業御下向の時ヨミタマヒシ

是れ閑居の多し夜深きに物見をうらみぬのり

一 中野善久 絶吉子 完翁 楮肩 骨レタリ 春臺モ子 元東野モ此人ノ

弟子ナリ 東野ヲモ 祖未ハ此人タリ 弟子ニシテ 完翁ハ春臺ヲ

殊ノ外ニホメラレタルト也

一周礼ノ會 春臺ヲアリシ時 和刊ノ自文ノ點ヨシト 春臺モ云レシト也

一 墨子ハ 弟鹿門ノ序ノル本マツヨシトナリ 城割ノ処ニ 春臺モ向テ 返ラセス

ノ置レタルト也 字彙ニモナキ 多シトナリ

一 関東ニテ 川原 普請ノ時 應堂 和泉 寺殿ノ有司 果トスルニ 仁存ノ人ナリ

長門侯ノ碑ヲ 達ラセタルヲ 関サテ 口惜キ 一人ニ 先ヲ 越サレシトテ ナ

ケキタルト也 後世ニナリテハ 長門侯ノミノ 普請ノマウニ 見ルニ 云ト云リ

一 國策ノ 本色々ナリ 今ノ 刊本ノ 目錄ハ 本肩トハ 違アリ 但来ノ方ニナリ 本

至テヨシトナリ 元祖ガモケル本ハ 文徵明ノキナリト云本ナリ 同ニ本ヲ子カ

可持セラレタリト 君修ノ祐ナリ

一 鶉士寧 送人 帰省 北越。 搖落 天涯 秋正 深。 故園 風樹 自蕭 森。

山中空抱前人壁。世上猶傳越客吟。蓬鬢全侵霜露色。萊衣
兼製薜蘿心。高堂親在好無恙。童逐飛鳴此地尋。子式以此
詩ヨカラス好無恙ノ三字キユストテリ第六句モスマス句ナリ

一中院殿榭開東ニムシクトメラレタル

前カト関東へ仰ラル(キ)テ御知セナカリシニ六板倉伊賀守殿道村卿

ヲ招キイカシ御知セナカリシト問ルニ不知ト答ラルヲシテナシリ問ルニ

勅命ニテナシシトアリシ故シラセタマフスナリ然レ内々ニテト知セラル(キ)ナル
ヲト板倉殿ニレシ時通村卿 勅命ヲ背キテ居臣ノ礼ヲ敗シ人ニ内應

スル者ナルト下ニ関東ヨリ商人ニシラスナトアルコトヲ承リタラシハナトカモラセ
ラル(キ)昔ハ天子ノ臣ナリ関東ノ臣非スト云レシニ六板倉殿詞ナカリキソレヨ
リテ公家衆関東へ下ラル、ホトノ人皆押留ラカレシニ通村卿モ久シク
江戸ニ逗留アリタル也又 後水尾帝ノ御讓位ニ関東ト御不知ナリ大
坂ノ一乱ヲ和平ニト 勅命アリシヲ 台徳院殿所許容テキヨリ事起シ也
一秀頼ハ薩摩へ落行レタルト云フ子允ノ若キ時仕セタル奴僕カ薩摩
人ナリシカテ御所ト唱テ薩摩ニテ秀頼子孫ツタハリテ有
リ但シ其御所ト云地ニ不知ト作リシ由子允ノ語リ

一 浅見安正ハ関東地ヲフマシ諸侯ニ仕(スト)誓言(リ)モシ時ヲ得ハ義兵
ヲアケテ王室ヲ佐(リ)シト云テ靖献遺言ヲ作(リ)シテリ

一 但来ノ刑律ヲ吟味セラル、一ヲ尤ヤリトテ春皇ヨリ書ヲマラセタル由
徠翁返書ニ尤ニ存ル足下ナラテト存候ト答ラレタル書ヲ春皇

大事ニセラレタルトヤリ

一 定家卿ノ手惡筆ナル由アマノモクツニ見(タリ)

一 山崎闇斎ノ文會筆録ハ大ニ用ニタツヤリト君修モ云(リ)

一 春皇ニ至誠ヲ積ル人ニ一家ノ化シタルノ奇妙ナリ皆聖人如ク思(フ)

トヤリ元麟ナトモ豊翁ニ化セラレタルト也

一 仁齋童子問語孟字義ヲ一生ノ學問見ユナリ但来ノ答問書辨道

弁名論語傲ヲ但来ノ一生ノ學術見ユナリアノ通リ肩作ノ置度ヲナリト

君修ノ論ナリ又云孔門ノ諸子ハワサニカケントセラレ故肩ヲ著サス戰國ノ諸

子ハトテモワサニ施ス^一ナラヌヲ知リテ肩ヲ作(リ)然トモ一見識ヲ聞キタルモノ故

皆一家ヲナセリ謹已後ハ一見識ヲ聞ク^一ナラヌニ人ノ論ヲ又ヌ^一テ肩ヲ著

ス^一後世肩ハミルニ足ヌ^一以ワケル(シト)君修ノ説ナリ

一 元麟云春皇亦多中務大捕殿執政忠良ヨリイリコ^一箱賜(リ)シテ後料理セラレ

シニ皆クサレ名イリコ也本多殿有司(肩筒ヲ以テイリコヲ返サレ不佞鄙人ナ
ル)不及倫サレ氏聖人ノ道ヲ曾問テサレシ爲ニカリ所會釈ナサレケルコナリカク
シツナル所會釈ハ聖人ノ道ヲ控シ玉フトモ云(キロソレニ)奉返上ケルト云レ
ケル有司モ大ニ驚キ何分是ヨリ答申サシ使ハ帰レトアリシニ臺翁ノ奴僕某
ト云シモノ心剛ナルモノナリシリ主人申附ケルハ所返答ヲ取帰ル(シトナリサレハ
イツマテモ待シコハ不苦ト云ケレハ有司モセンカタナリ中務殿ニ言ヌスレハ大ニ
迷惑シタマヒ色々ト謝シタマヒテ新ニイリコヲ贈ラレケルトナリ元麟(浩シ)
一 元麟云白石ノ父ハ土屋民部痛殿是輕ノ小頭ニテアリシカ大目付ヲ昇進ス

此人極テ才氣アリノ癱ヲ煩レテ医者未テ見ルニ疾マスト云医者イタヌ又ハ
瘡治ナラヌト云イタヌト愈答ラル白石ノ母出テ医者ニ向テ吾夫ナル人ニ生イ
タト云コトヲ云ハヌ物ト覺タルル(シツヨク)痛ム見テ其節ハ壁ヲ向テ肩ヲヒ
ツメテ痛ヲ忍フ休ナリ吾モ痛トハ云スト云医者有坐ハ瘡治ナルトテ治セリト云
又白石七歳ノ時芝居ヲ見ニ行テ初ヨリ終テ一々記臆ニテ帰ラシリトナリ
此児アシクナルカヨクナルカ並ニナラスト云レタルナリ
一 子縛云劉鳳カ李千鱗ヲコナシタル唯一通ソニコナシタル非ス韓退之ノ才
ニテ昔ノカスニナリタル処ハ用ス千鱗カ才ニテ陳言ヲサルハツ也然ルニ左モナキ

ト云コナシナレハ本字カオヲ韓ヨリ上ニミタリソシルマウテ実ハホメタルナリ

一子綽云長崎遊學シ華音ヲモ因タリ十有餘年已前ノナリ譯者トモ出
合タルニ中ハヤノ如クテ用ニタツイ非ス華人ノ詩モ下キ多シ華音ト譯字トシ
リタリトテ文章用ニズスト其頃ヨリ着破セリトナリ神彦右五門トテ譯者
少文モナリタリ以人ノ一言尤ナリトアリ文章ヲ見ルニ先題ヲ見テ吾ナレハイカマウ
ニ肩ヘキトエリ腹稿シテサテ見掛リテヨシ又首段ハイカマウ肩タスマ次ハ
如何其次ハ如何ト皆腹稿ノミテサテ文章ヲ見テ古人ノ我械軸ノ合マ否ヲ知
ヘシコレ文章ヲ見ルノ法ナリト云タリキ是尤ナリト子綽語レリ又袁中郎ナドカ

如ク肩ハ何ホトモ肩ルニシ又徠翁ノ村ハ天縱ナリ又ノ面目アリ卓見ニ過タル
マツ也天狗ノ説ヲ東涯見ラシテサテモク天狗ノスカタアリノマニ肩アラハシナリ
妙ナルモノ也徠未ナラテカル文ナルヘキマト子綽ニ語レシト也又子綽曰余ハ奥
州三春ノ人ナリ金華ト同郷ナリ金華ハ幼少ノ時逢タリ二十年前江戸へ
来リ古耕ナトシテ秋本喜内ニ近付テリ古學古文ノナリ岡中トシテカレ
ヌト思平安遊學シ長崎ヘモ遊學シテ十其六年前江戸歸リ今ノ岡崎
侯ニ仕ヘタリ四先生文範ハ平安ニナリシ時矣ラツケ花ト也又云宇野三平モ子文
ニ矣ラツケタル由南郭シテ処ニ直リタル所ヲ不用南郭ノ序文モ三平氣ニス

シテ南郭モ三年ハ情々年月由レシト也子綽又云李文古ニアノ格ナシ但
韓非子ヨリタル処多シト思ハ此ノハ弁列モ五云ハトナリ又云士寧ト居修
ハ東都文人ナリ田心平社中ノ文人ナリトノ評ナリ

一 釋明云三王外紀ハ 憲廟實錄ノ出来シ時祖未キツタイアリテ春臺モカ、
ラレタリソレニ内々ノモ能ク知レルニ外紀モ肩レタリ

一 釋明云春臺沼田侯ノ領地ニ大同二年ノ竹アリソレヲモキイテ笛モラレタリ笛ノ
トヲマクノモ自方モラレタリ隨分精カノ厚キ人ナリ樂大鼓モヨク覺ラレ
タリ又憲廟實錄ノ出来ル時布衣以上ノ所役人ノ名彙入ラレタリ御用トテ

書出サセラレタリソレニタイカフ手間ハタル由春臺ノ借ラレシトナリ

一 子綽云安瀟泊策問三首肩テ人ニ對策ラカセラレタリ子綽モ書レ
タリ中々ナリマテノ也

一 釋明云周易及正數辭以下ノ注コトナラニ能出未クト語レリ

一 奥羽軍記ノ一覽ス新羅三郎殿奥州へ下ラレシ歲月不詳前後ノ文面ヲ
考ルニ秋冬ノ内ノコト見ヘタリ其子細三郎殿對面ノ後ノ文春夏トナリ
ニナリ其間ノ不詳大カタ秋ト見テ然ルハキ歎

一 祖未今ノ大御所紀州ヨリ入ラセラレシ御時云レケルハ中興以此時ナリ間部

越前守ニ腹切也國初功臣ノ諸侯ノ衰ルニ即加恩成サレ即取立候テ
民ノ耳目ヲ新ニ成サレスニ次弟ノ衰ヘ行クニシト云レタリ其後一年アノノス
キテ吾ニ如ク成サラズサテ中興氣象ナシトナケキテ春臺ニ語タル也

一九月十二日東叡王ニ使ノ序天眼寺至テ春臺ノ墓ニ謁ス春臺太宰先生

墓ト家字ニラホリツケ裏ニ南郭ノ福銘アリ末ニ友人平安服元喬撰

東都葛辰書存子定保タツレホリタリ其側ニ太宰太公墓アリ裏ニ

但来先生ノ文ヲホリ存子純タツトホリタリ

一子亮ノ方ニ春臺所持ノ杜林合注ヲミル至極念入テ直テメソコフニ

テ一点一畫ノ訛ヲ直レ青墨ニテ人名ニ一ヲナシ朱ニテ句読注ニ青墨ニ

テ句上ニ墨ニテ書込アリ春臺ノ製也ラル青墨也見事ナリ

一子亮曰春臺詩有古傳アリ浄寫一日廿七八張アリタルトナリ

一九月望深川(御代香ノ時子式ニ遇訪古今詩冊ハナシアリ干鱗カエラ

ミタル詩冊ハ出スシテ外人名ヲカリテ詩ヲエラミ九美カ序ヲツケ名欲

エラミマラ何トマラン合矣ユカスト云レタリ

一子式云白石八日不開關已未詩ノ上チテリ去年ノ朝鮮人トリワケ下キ也

正徳聘使ノ東郭マレナルニシト云リ

一子式云君修十三歳ノ時東都ニ来リテ先ツ子式ニ謁ス其時十三経ナト一周
覽シ大抵古俗ハヨクヨミテ大守致知格物ノ説ナレモ後論アリテ経義ハ
中々人ニエラスト古人ヲ排撃ノ是才ニ誇レリ誠ニ神童ナレト人ノ力氣増
長セハ自負ニ過ライカナル人ニナルヘキマ大方ハアシキ人ニナルヘキト思ルニ春臺ト
ハ子允カ子ニ心易キ故タノミ可申トアリシニ尤然ルヘシト云テ春臺ノ門人ナラ
レタルカ春臺ノキヒシキ人ニアイトルニカ今ニ至テ才氣ヨキ仁ニナリ見事ノ人物
ナリイカモ人品ノ君子ニナラセラルト子式クカヘシホメラレシノ子式亦云春臺ノ
門人ハ才モ才モ人品ヲトナシキトナリ是春臺ノ手扱ト見ニ祖来南郭春

臺ヲウミ出シタル人ホトアリテ氣量ノ大サ格別違タルモノ也ト云リ

一君修云仁齋ヲ松平紀伊守殿招キ講肩ヲキ、タマフ時京都所司代公方ノ御
名代ナリトテ衣服ヲ新ニシラテ着テ行レタリ祖来ヲ東都ニテ大御所御目見
仰付ラレシ時美濃守殿ノ留守居 御城ニテソナメハ高声ニ物ニタマフ
御城ハ格別ノ処ナリ物イヒ高カラヌマウニト云レ時徠翁カラト笑テ六十マテ高
声ニ云ツケタル物ニ俄ニヒキクナルトニアラスト高声ニヒキワタリテ云レタリ
シキト云タルトテソマニテ 後語ラレシト也子亮又曰徠翁御目見ノ色々
先例御吟味アレ氏陪臣大夫ナトノ外ニカマウノ類ノ先例ナシ然トモ祖来

御目見 仰付るハハ學問スル者ノハケミニナルヘキトテ先例ヲ破リテ御目見
見櫓不ノ間御代官ノ席ニテアリシト也

一 春臺初テ俳翁ノ對面ノ詩文ヲ出シテ見セラシタル時足下ハ詩文既ニ家
ヲナセリ経學ヲ修シタマハト云レタリ一見ノ其人ノ長ヲ知リテ俳翁ノ長ナリト君
修カタレリ

一 士寧ハ京師ニテ明霞稿ノ序ノ作者石川正恒ニ學ビ後ニ子式ニ侍リ學ニ後
ニ南郭ニツクハラレタリトナリ子式ニ語リテ詩ヲ知ヌ人ニヨリ詩ヲ見セタマフタ
カダキコナルニ先生ハヨクタヘ玉フト大ニ嘲ロウナリシカハ子式足下ニハ世祿

ナリ予ハ詩ヲ産業トス詩ヲ人ニ見セサレハ餓死ストアラクニ答タルト也

一 老子無名万物ノ一ト云ハタルヲ林希逸見テカヘタリ無名万物ノ一ト云ヒテヨ
シ名クト活字ニスヘシト春臺ニレタルト也

一 春臺モ東涯ハ五朝小説百川學海說部ノ類フトヒニ見ラレト君修語ノ
一 君修子路ノ死ナレタリト云ハタルヲ左傳ノ外ニツキ物ナシ左傳アソコノ所殊ニ簡ナリ子路
ノ云フニ見ソマツナルト云覺ユ日本ノ武者徒死ヨリモ又ケナシキ死マウナルトナリ
如何心得カクシ

一 春臺ハ京ノ浪人ニテ居ラレタル時少ノ間醫ニナラレタルニハ醫理ヲハヨクシラ

レタリト也

一 春臺三平ニ名ヲ恒有ト付ラレタリ獲麟解ニヨレノ文章キハナトハ不常
有トアリ覺シヨナヒト君修モ思テ韓文ヲ見ルニ恒有トアリ初テ春臺ノ讀
書精密ヲ知リト君修語ケル

一 仁齋曰礼ノ中ニ好仁者范文正公司馬君貫トアリ惡不仁者伊川朱子トアリ
朱翁ノ説ニ符同スト君修云リ

一 君延ハ酒キラヒ曲江ハ酒スキ也春臺曲江ニハ酒ヲノクス君延ヲミテハ數盃ヲカクケ吞
文會雜記卷之一終

